



次に平成28年度の事業計画と総額2千353万円にのぼる平成28年度一般会計予算に

ついて審議した結果、こちらも満場の拍手で原案どおり承認された(27年度一般会計決

算書と28年度一般会計予算書は5ページに掲載)。

畑澤潤一顧問が勇退

この後役員人事に関する提案があり原案どおり承認された。役員の変動は以下のとおり。

▽退任 畑澤潤一顧問(元校長)、伊藤成年副会長(昭和49卒)、鎌田壽監事(昭和42卒)▽就任 伊藤成年参与、安田浩幸副会長、田村泰教監事(昭和59卒)。

また、企画委員に新たに山口武秀氏(昭和49卒)の就任を求める人事案件に同意したほか、統先記録編纂準備特別委員会の名称を「新先記録編纂特別委員会」に変更する案も満場一致で了承された。

総会は最後に、平成26年9月末で退職した女性事務職員との間で退職金の支払い額をめぐって現在係争中の裁判について高橋智徳副会長(昭和40卒)が経過説明をした。

それによると、この案件は当初、秋田地裁で2回の労働審判が行われた。しかし和解に至らなかったため通常の裁判に移行し、同窓会側は代理人として秋田弁護士会所属の

田中伸一弁護士(昭和44卒)に依頼して現在に至っている。

高橋副会長はさらに続けて、「これ以上の詳細については裁判の進行に影響するので説明は控えさせていただきます。退職金積立会計はすでに廃止しており、現在の事務職員とは退職金制度はない旨を明記して契約をしている」と語った。

総会に引き続き、KADOKAWA常務執行役員の山下直久氏(昭和51卒)が「秋田とKADOKAWAと私」と題して記念講演を行った。

講演会後の懇親会はおよそ180人の参加者で大いに盛り上がった。会場びっしりのテーブル席を埋めた参加者を前に壇上に立った昭和16年卒の最年長、古村潤二郎氏(校友会歌の作詞者・古村精一郎氏のご子息)がとて93歳とは思えない力強い発声で乾杯、和やかな雰囲気の中で祝宴は始まった。

出席者は最初こそ指定されたテーブルで大人しく談笑していたものの、やがて他のテーブルに旧知の先輩や後輩を見つけて席を立つ人が目立ち、会場はあちこちに話の花が咲いて大きな笑い声に包まれた。大正、昭和、平成生まれが一堂に会して談笑するといふ、長い伝統校ならではの光景が繰り広げられた新旧交流会であった。

最後は応援団OB会、紫紺の会のエールで校友会歌を大合唱、出席者中最年少のプロダンサー鈴木祥高氏(平成12卒)が中締め乾杯をして散会した。

事務局職員を公募採用 再び2人常勤体制に

女性職員の退職に伴い2014年10月から一時事務局長1人だけとなっていた同窓会事務局が、今年4月から常勤2人体制となった。

後任の事務局職員をホームページで募集したところ2人の応募があり面接の結果、東

海林玲子さん(昭和54卒)に決まった。契約は来年3月末までの1年間で、これにより事務局は土日・祝日、年末年始などを除き事務局長と事務局職員の2人が常駐する本来の体制に戻った。

